2016 年 1 月

*** 年頭所感 ***

2016 年の内外経済素描

日興リサーチセンター株式会社
理事長　　山口　廣秀

明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって良い年となることを心より祈念しています。

年頭に当たり、内外経済について日頃考えているところを、簡単に述べたいと思います。

振り返ってみますと、昨年は、内外経済や金融市場が大きく変動した一年でした。春から夏にかけて、市場は、ギリシャの政府債務問題でかなり動揺し、欧州を中心に企業や消費者のマインドも、萎縮しました。その間、中国経済の減速が次第に明らかになり、夏場には、中国の株価が急落し、それが他国の株式市場にも直ちに波及しました。また、原油をはじめとする資源価格は、下落基調を辿りました。年末には、米国の FRB が９年半ぶりに政策金利引き上げに踏み切りましたが、そこに至るまでの市場の思惑には大きな振れがありました。まさに多事多端の一年だったと言ってよいと思います。

一方、国内景気は、足踏みを続けました。個人消費は年間を通してもたつき、設備投資も浮揚感に乏しい展開でした。輸出の低迷も予想以上でした。

さて、今年の内外経済はどうなるでしょうか。海外に目を向けると、中国は引き続き景気減速を続けるとみられます。中国の影響を強く受ける他の新興国も減速は免れないでしょう。欧州は、回復に向かうと予想していますが、力強さには欠けるでしょう。しかし、米国については、ゆっくりと回復軌道を辿っていくとみています。つまるところ、海外経済全体としては、当面停滞を続けますが、その後は、ごく緩やかな回復に向かうと考えています。

こうした海外情勢を前提に、わが国の景気を予想してみますと、海外経済同様、当面は足踏みを続けるでしょうが、その後は、個人消費などの持ち直しから、一応回復軌道に戻っていくとみています。なお、秋口から来年春にかけては、来年４月の消費税引き上げを睨んでの駆け込み需要も、少しは出てくるでしょうから、これが景気を一時的には持ち上げるのではないかとみています。

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

昨年と同様、内外経済を取り巻くリスクは少なくありません。中国経済が、クラッシュはないとしても、大きく減速する可能性は否定できません。その場合には、他の新興国にも負のインパクトが及びます。さらに、FRB の金融政策運営も波乱要因の一つです。久方振りの政策転換だけに、世界の金融市場が、今後の FRB の政策運営を冷静に受け止めていけるかどうか、この辺りも心配です。原油価格の動向にも目が離せませんし、テロや様々な地政学的なリスクにも注意が必要です。こうした下で、わが国経済も、輸出の一段の下振れや設備投資の先送りといったリスクをかかえています。

このように、今年の内外経済については、いずれは緩やかな回復パスに復していくとみていますが、道のりは平坦ではありません。この一年、実体経済やマーケットの動きをこれまで以上にしっかりとみていかなければならないと、気を引き締めています。

以　上

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。